

面接が行われる部屋

欧米式の面接ですと、個室を使うエアラインがほとんどでしょう。

場所はホテルの一室や自社オフィスの一部屋など、いろいろなケースがありますが、エアライン側も面接を受ける人が非常に緊張するだろうとわかっていますから、威圧感を感じるような大きな会議室などは避け、こぢんまりと、それでいて息がつかまらない程度の広さの部屋を使う場合が多いようです。部屋の中には、キャンディデートと直接対峙しないような席の配列になっていて、ハの字に面接官の椅子を配置する形が主流です。ここでも、キャンディデートの緊張が軽減できるようにできるだけ避けられるよう配慮されています。低いコーヒーテーブルなどが置かれていることもあります。キャンディデートの全身像が見えなくなってしまうような、背の高いテーブルが面接官との間にあることはないでしょう。

アジア系外資では、日本企業の一般的な面接のように、面接官がずらっと長いテーブルにつき、キャンディデートが、ボツンと部屋のまん中におかれた椅子に座って面接を受けるという形もあれば、欧米式のやり方を取り入れているエアラインもあるでしょう。

欧米式の一般的な面接の部屋の配置



面接室に入ったりする時はこんな感じだ

待合室で待機していたキャンディデートは、面接室にだれかにエスコートされて行くこともあれば、面接官自身が待合室まで迎えに来ることもあります。

だれかにエスコートされる場合は、キャンディデートが入室すると、面接官は席を立てて出迎え、また握手を求めるときもよくあります。これは一般的なマナーであり、日本のおじぎと同じです。握手は、最初がない場合でも、面接終了後、求められるということもあります。ただし、日本で面接が行われる場合、日本人はこういった「初対面の人との体の接触に慣れていない」ということを配慮して、握手は全くしないというやり方もあるかもしれません。アジア系のエアラインでは、はじめからそういうことが一切ないという可能性もあります。

部屋に入ると、「Hello.」「Hi.」「How are you?」などと声がかかり、握手が求められるときは、面接官自身が軽い自己紹介をしながら手を差し出します。面接官が複数いる場合は彼らの紹介がそのあと続きます。紹介された人はそこで「Hello.」「Nice to meet to you.」などと言いつつまた手を差し出します。あなた自身の紹介は、部屋までエスコートしてくれた人が、「This is Ms. Yumiko Tanaka.」などと、してくれるはずだ。

面接官の自己紹介は、「Hello. My name is Tom and this is Cindy.」「こんにちは。私はトムです、こちらは、シンディ」というものから、「私はトム、人事部長をしています、こちらは…」など肩書きが付く紹介の場合もありますが、どちらにしても簡単なものです。握手がある場合は、この時に手が差し出されます。

待合室に面接官自身がキャンディデートを迎えに行く場合は、上の最初の部分で待合室でなされ、あとは面接室に入ってから行われます。この場合、面接官はマナーとして、キャンディデートを先に部屋に通して